

## 赤水溪谷・桃洞溪谷ウォータートレッキング留意事項

奥森吉地区の赤水溪谷や桃洞溪谷は、近年多くのトレッカーが入溪するようになりました。同地区で怪我をした場合、携帯電話がつかえないので救助に時間を要します。

歩道整備は桃洞滝までです。桃洞滝上流部から赤水溪谷に至る周回コースは、全域が一枚岩盤の沢歩きで、小滝の昇り降りが随所に出現し、クライミング装備を必要とするバリエーションルートです。

入溪について留意事項をまとめたので、参考にしてくださいませれば幸いです。

### ①桃洞溪谷の桃洞滝まで

- 桃洞赤水分岐から桃洞滝までは1.2 km、高低差は数メートルです。
- 途中の横滝を経由し500mの滑床のおう穴と小滝の深部に六階滝と桃洞滝が合流します。
- 桃洞滝までは歩道が整備されて、ビギナーの探勝コースになっています。

### ②赤水溪谷の兎滝までのコース

- 桃洞赤水分岐からうさぎ滝までは約4.0 km、高低差は45m程です。
- 歩道が無い、沢歩きのバリエーションルートです。
- 沢シューズ又はスパイク付き長靴厳守。(長靴は水が入ることを覚悟)
- 通常の水深は沢漕いで5~30 cm程で、沢歩きは兎滝まで片道約3.5 kmです。
- 遡行時の転倒や亀裂・深み・甌穴に落ちないように注意喚起が必要です。
- 赤水溪谷の遡行は、うさぎ滝往復で大満足がいくと思います。
- うさぎ滝から上部の遡行は、クライミング技術と装備が必要になります。

### ③赤水玉川分岐から赤水峠まで(玉川温泉方面)のコース

- 本流から玉川温泉に向かう枝沢の源流部を詰めるコースです。
- 水量は多くはありませんが、滑滝と小滝が連続します。
- 小滝に設置してあるロープや鎖は、補助として利用してください。
- 赤水峠までの源流部は、倒木によるプールができるため長靴歩行は適さないので沢シューズを推奨します。
- 滑りやすい小滝を登るため、ヘルメット、ザイル(10~20m)必携。
- ルートの案内はマーキングテープのみです。
- 歩道は大正時代からの湯治場古道でしたが、近年公的な整備、刈り払いが行われておりません。
- 赤水峠から柳沢林道までは約1.2 km 25分、林道の整備は行なわれていません。
- 柳沢林道を4 km歩くと約1時間で国道341号に出ます。対岸の玉川大橋を渡ると新玉川温泉です。(本館の玉川温泉は連絡歩道の0.5 km先です)

### ④赤水峠から赤水溪谷に降りる逆コース

- 小滝と滑滝を下るので練度が必要です。初心者や経験の無い方は怪我の元になるので推奨できません。
- 安全のためハーネス着用の降下が必要です。
- リングアンカーボルトの腐食にご留意ください。

## ⑤桃洞溪谷～赤水溪谷源流部周回コース

- 周回コースは、赤水溪谷と桃洞溪谷の源流部を周回する本格的な滝の登り下りを体感するクライミング技術を要するルートです。
- 未経験者の安易な入渓は怪我や死亡事故につながります。
- 周回ルートは、桃洞滝を登り甌穴と小滝が連続する滑床を進み、中ノ滝と男滝と登ります。男滝上流 200m先の左ノ沢を約 60 分遡行すると峰の乗越しに到着です。赤水溪谷出合いまでは、緩やかな滑の源流を下ること約 30 分で兎滝上部 1.2 km 地点の平床に合流します。
- ここから落差 5～10mの 4ヶ所の小滝と、最後のうさぎ滝 20mを降下すると広いうさぎ滝ホールにまねき岩が待っています。
- 残り約 3.5 kmの緩やかな「天国の散歩道」をひた歩きし、沢淵の歩道を 350m歩くと桃洞赤水分岐に戻ります。
- 周回コース源流域(桃洞滝～うさぎ滝)に点在する滝の頭部には、降下用のステンレスアンカーにハンガーを取り付けています（ピンクのテープングが目印）。  
ナットの緩みを確認してから利用してください。

### <留意事項>

- 奥森吉地区は青少年野外活動センター付近を除いて携帯電話が通じません。
- 怪我をした場合は野生鳥獣センターまで戻り、衛星電話に頼ることになります。
- 野生鳥獣センターは午後 5 時で管理人がいなくなります。その際は、森吉山荘まで車で 13 km 30 分移動しなければなりません。
- 怪我の場所により 3～7 km戻るため、連絡まで最低 2～3 時間を要します。
- 救急車到着までは、更に 1 時間 30 分かかります。
- へりは日没になると飛びません。
- 柳沢方面は国道 341 号に出ると携帯はつながりますが、同様に救急車到着までは、更に 1 時間 30 分かかります。
- 溪谷において怪我をした人をタンカーで運ぶことは困難です。
- 背負うとしても、強靱な体力、ザイルワークとルート取りの経験が要求されます。無理な救護は二重の遭難が発生してしまいます。
- 9 月下旬以降は朝夕の冷え込みが増し、早い年は 10 月下旬に初冠雪があります。
- 秋は甌穴に落ちて濡れないようにレインウエアーを着込んで歩きます。

### <過去の怪我の状況> (2010 年～現在)

- 足首の捻挫 2 人 ●尾骶骨骨折 2 名
  - 手首の骨折 2 名 ●上腕骨骨折 1 名
  - 大腿部を打ったはずみで膝上大腿骨骨折 1 名
  - 浅い亀裂に滑り、膝下の腓骨と脛骨を同時骨折 1 人
  - 浅い亀裂に足首が入り、右薬指を骨折 1 名
- ※怪我の場所は小滝を滑ったり、深みに落ちたものではなく、膝下の浅い場所での転倒によるものばかりです。
- ※いずれも 60～70 歳代の女性です。
- ※骨粗鬆症の要因があると思われる怪我也散見されました。

### <過去の捜索状況>

- 幼児を連れて2組の家族が安易に赤水溪谷に入り増水し戻れなくなる。沢ですれちがった入渓者からの情報で県警に情報提供する。溪谷に救助に入ったヘリが後部ローターを木に当てしまい別のヘリが救助に当たる。日没となり、一部の家族は自力で下山したが深夜になる。
- 桃洞溪谷から赤水溪谷を周回するルートに入った5人のパーティーが増水で足止めとなり一晩ビバーク。宿泊予定の宿から捜索依頼が出たため、翌日に新聞、テレビ各社が野生鳥獣センターに集結、地元遭難対策班、消防署員、県警が翌日捜索し全員無事に下山した。遭難者は沢歩きのベテラン集団で安全策を取ったとのこと。
- 過去に入渓し、行方不明のまま発見されていない事例が2件あり。

### <最後に>

- バランス感覚のおぼつかない人、自重を確保できない人は入渓を避けること。
- 健脚であっても沢歩きは登山道と違い総合的なバランスの見極めが求められます。
- 自分はできるから仲間やグループの人でもできるだろう、と言う思い込みで人を誘うと怪我や遭難の要因になります。
- バランス感覚に自信の無い方はクマゲラの森～桃洞溪谷往復で楽しんでください。
- 過去に、新玉川温泉への縦走ルートで、長靴に軍足を履かせたが小滝を登れず、難儀している女性高齢グループを案内しているガイドがいました。同ルートは沢に風倒木や落葉が堆積した場所が随所にあるので長靴は適しません。
- 寒冷前線等に伴う豪雨が30分続くと急激に増水し、深みが確認できなくなるので大雨注意報発令時の入渓は避けてください。
- 赤水溪谷と桃洞溪谷は、1枚岩盤の火砕流台地が浸食された溪谷に、灌木林や森が迫る「天国の散歩道」ですが、意識障害や歩行困難を伴う怪我をすると「地獄の散歩道」になってしまいます。
- 一般登山道においても転倒による怪我は付き物ですが、特に入渓に当たっての怪我等は想定内とし、その準備と応急措置の実践が求められます。
- 入渓にあたっては、経験者またはガイドの同行を推奨します。

情報収集は気軽にお電話ください。<協会事務局：090-2366-8201>